





細川絵美

今西哲也

## Sweets バレンタイン開催!

2月14日に、のじりこびあで『Sweets バレンタイン』を開催しました。ハーメックのじりイベントプロジェクトチームと「冬のイベント」・「バラ園」をテーマに企画を練り今回のイベントを開催させていただきました。私はチョコレートフォンデュやパルーンアートに挑戦し、悪戦苦闘しながらも楽しみなながらイベントを行うことができました。今後地域と連携を取り、楽しみながら街に携わっていきたいです。(今西哲也)



## メロン物語は「こぼナビ」でも放送します!

前号に続き「のじり聞き書き」では、メロン開拓物語取材しました。お話を伺った方々の様々な想いに触れ、野尻の魅力にどんどん引き込まれました。取材した内容は、「こぼナビ」で3月に放送します! 冊子としてもまとめる予定です。ぜひご覧ください! また、次回以降も様々なテーマで、野尻の宝物を聞き書きしていきます。取材のご協力宜しくお願致します。情報もお待ちしております!(細川絵美)



# 生産者 農協 行政

## 三位一体で挑んだ 成長と発展

暮らしを伝える「のじり聞き書き」第3回は「メロン」物語「成長編」です。前号で紹介した「五人の先兵」と呼ばれた若者達を支え、野尻のメロン栽培の普及、発展に尽力された方々にお話を伺いました。

### 水がない弱みを強みに変えた 青年達の勇気と町のフロンティア精神

原料用かんしょの転作、「水がないから何もできない」という諦めが町の課題でした。乾燥を好む作物を探しメロン生産を提案し、毎晩座談会を開き地域を回りました。なかなか賛同者が現れない中、5人の青年達が手を挙げてくれたのです。当時の町長がフロンティア精神を掲げ応援してくれたことも追い風になり、青年達や家族と一緒に試行

錯誤しながら夜も正月もなく奔走し、初収穫できたときはみんなで喜び合いました。その後5人を中心に栽培を広げ、後継者を育てることに注力していきました。(原口さん) 昭和45年、初任地として赴任し、当時盛り上がりつつあった小林地区SAP活動の中で、特にメロン栽培の釘松園芸グループの活躍は素晴らしかったです。(松田さん)



原口春盛さん 松田忠士さん  
当時 小林農業改良普及所 職員



当時の原口さん

### 昭和48年 コサックメロン導入

ビニールハウスも増え、トンネル栽培から移行し、コサックメロン栽培が導入される。

### 昭和44年 プリンスメロン 初収穫



5人の若者が中心となり初収穫を成功させる。食べたことも種もない中で、5アールの共同試作ほ場からの始まりだった。



森田重明さん  
当時 野尻町役場 職員

### 昭和63年 アールスメロンが普及

市場の高級志向に伴いアールスメロンを導入。年二作型栽培も普及。

### 昭和50年 販売高1億円達成!

この頃、ミツバチ交配を取り入れ始め生産面積が大幅に広がる。販売高1億円を突破し、築地市場で、出荷量・品質日本一の評価も得た。



岡本正澄さん  
当時 小林農協 職員

### メロンの成功は、町に希望を与えた

社会教育主事として若い人たちが自信と夢をもてる教育方針を目指し、農業の発展が町の発展に繋がる・教育が土台になるという想いで、農業青年育成に取り組んできました。彼らは本当によく頑張っていました。メロン栽培の成功は、他の若い農家にも、負けちゃいけない!俺たちもやるんだ!と競争心、やる気、希望など良い影響を与えました。

平成20年 光センサー導入 めろめろメロン誕生



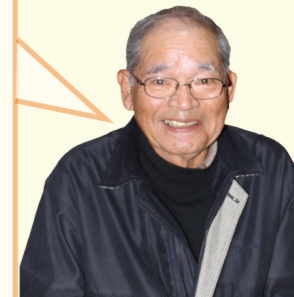
### 平成5年 販売高10億円達成!



野尻町のメロンー品種で販売高10億円突破!記念大会を開催。

### ミツバチ交配・寒冷沙栽培 知恵と努力を集めて日本一の評価

レンゲ畑をヒントにミツバチ交配を取り入れたことで、人工交配では一反が限度だった生産が、三反分栽培できるようになり、寒冷沙栽培を始めピーマン栽培もできるようになり、生産者の経営が豊かになりました。築地市場で日本一の評価を得たことや、町外に出稼ぎに出ている人も戻ってきてくれて、小学校の運動会に両親揃って参加する家族の姿を見られるようになったことは嬉しく、印象深いです。



園田正明さん  
当時 小林農協 職員

### 品質向上、本物志向、使命感で突き進む

昭和60年に園芸担当となり、当時は100軒近い生産者を日の出とともに回っていました。アールスメロンを導入したときは最初はなかなかうまくいかず苦戦しましたが、協力してくれる生産者と共に試行錯誤しながら必死に取り組みました。品質改良した結果、どんどん生産者の経営が安定したことが一番嬉しかったです。

※数値は、こぼやし農業協同組合の資料に基づいています。